

10代の
教養図書館

1

南定四郎

Teishirō Minami



POPLAR
TEENAGE
CULTURAL
LIBRARY

バイ・システムを知っていますか

エイズと ともに生きる



ポプラ社

エイズとともに生きる…バディ・システムを知っていますか

一九九三年四月 第1刷発行

著者……………南定四郎

発行者……………田中治夫

発行所……………株式会社ポプラ社

東京都新宿区須賀町五[郵便番号]一六〇

【電話】〇三・三三三・五七・二二二一(営業) 〇三・三三三・五七・二二二六(編集)

FAX 〇三・三三九・二四・五三四一(ご注文)

【振替】東京四一四九二七一

編集担当……………杉浦純子

印刷所……………須藤印刷株式会社

製本所……………石毛製本株式会社

©Taishū Mirami 1993 Printed in Japan

ISBN4-591-04478-5

N. D. C. 493/180P/20cm

落丁本・乱丁本は送料小社負担でおとりかえいたします。
ご面倒でも小社営業部宛お送りください。

写真提供……………PPS通信社／PANA通信社／鳥取大学医学部

南定四郎 [みなみ ていしろう]

1932年12月、樺太に生まれる。72年(株)岩出版を創立、ゲイマガジン「アドン」を創刊、編集長に就任。84年ILGA日本(インターナショナル・レズビアン・ゲイ・アソシエーション・ニホン)を創立。89年2月、エイズ・ボランティアの団体「エイズ・アクション」を創立、事務局長に就任する。現在、「出前講習会」の講師として、学校や地域で、エイズ教育を実践している。



POPLAR
TEENAGE
CULTURAL
LIBRARY

エイズと ともに生きる

システムを知っていますか

Minami o Minami

定四郎



エイズへの理解を呼びかけるボランティアの若者たち

10代の教養図書館

1

ポプラ社

プロローグ 6

1 エイズという病気 10

免疫とは何か？／エイチアイワイ HIVに感染して考えること

エイチアイワイ HIV感染から発症まで／もしもエイズにかかったら

セーフ・セックス

2 エイズ・ボランティア活動 39

ボランティアを始めたきっかけ／エイズと地域医療

ボランティアの自発性／サンフランシスコのオープン・ハンド

レッドリボン・プロジェクト

サンフランシスコの二〇〇のボランティア団体

3 ボランティアの心 66

M君はなぜボランティアを始めたか？／花束プレゼント運動

サンフランシスコのポール・シマザキさん／陽気な感染者たち

メモリアル・セレモニー／フレンドリー・プロジェクト
全国にいるボランティアの支持者たち

4 セックスとは？ 104

セックスのちがいは？／ポルノグラフィの意味／男らしさ女らしさ
セックスは学習である／快感はいっぱいあるから／セックスの低年齢化

5 エイズ感染者とともに 132

三六歳で死亡した美容師／二七歳で感染した女性英語教師

6 エイズと子ども 149

ウガンダの子どもたち／マニラの子どもたち
サンフランシスコの子どもたち

7 バディ・サポートとは？ 163

ピープルズ・パークのホームレスたち／小さなプレゼント運動
バディって何だろう？

【装幀】……………相良 薫

【装画】……………笠原理恵

【本文イラスト】……石原延啓



POPLAR
TEENAGE
CULTURAL
LIBRARY

プロローグ

これからエイズのお話をします。

そもそも、この奇妙な病気が人びとの目にさらされたのは、一九八一年六月のことでした。アメリカの国立防疫センターの伝染病週報に「ロサンゼルスで五人のカリニ肺炎患者が発生した」と記録されたのがはじめての報告例です。

「カリニ肺炎」とは、カリニ原虫という微生物が肺の中にはいったために引き起こされる肺炎のことです。HIV（ヒト免疫不全ウイルス。エイズの原因となるウイルス）に感染しても治療しないでいると、多くの人びとはこの病気にかかります。HIVウイルスに感染し、しかもカリニ肺炎、カンジダ症（舌が



白くなる)など二一の症例(33ページ)のどれか一つが症状として出ればAIDS(エイズ)後天性免疫不全症候群)といっています。

日本で最初の患者について報じられたのは、一九八五年三月のことでした。それから八年近くすぎた一九九三年一月三十一日、WHO(世界保健機関)のマーソン博士は、スイスにあるダボスの世界経済フォーラムで記者会見をして、世界のHIV感染者は一三〇〇万人にのぼっていることを明らかにしました。これに対して、日本国内では一九九二年一二月末日までのHIV感染者は二五五人となりました。アジアではタイについて二番目のエイズ多発国となっています。

みなさんは、このような話を、自分のことだ、と思うことができますか？

きっと、多くの人は自分のことだ、とは思わないでしょう。それは一部の人たちのことで自分には関係ない、と思うにちがいません。それが、正直な気持ちです。

ですから、エイズの話は勉強しなければわかりません。また、この勉強はた

いへん複雑かまざつな勉強べんきやうです。

まず、HIVウイルスエイチアイワイに感染かんせんしてから八年から一三年もすぎてAIDSになります。このことを理解するためだけでも、専門せんもん的な勉強べんきやうが必要です。それから、HIVウイルスに感染した人やAIDSになった人（PWAといいます。41ページ）がなぜ差別さべつされるのか、を理解するためには、ほんととはボランティアをするなど、行動してみなければなりません。これらの勉強べんきやうは免疫学めんえきがく、心理学しんり学がく、社会学などの専門分野の問題なのです。

しかし、むずかしい勉強だからといって手をこまねいているうちに、日本でも数年内には感染者かんせんが莫大ぼくだいな数になる（筑波大学つくば・宗像助教むなかた）といわれています。

そこで、ぜひとも、みなさんがんばってほしいのです。エイズの話はやさしくはできないのです。動物やコンピュータ・ゲームのようなたとえを用いて話しても理解できません。たとえを用いなければ用いるほど、ややこしくなつて、元の原理げんりがわからなくなつてしまいます。そこで、私はなるべく実例を用いし

ながら話をすることにしました。もし、わからない点が出てきたら、ほかの本なども見て理解を深めてください。

若いみなさんが、この本を手にとってページを開いたとき、そこには未知の世界が待っています。未知とは、わからないことではないことです。でも、手さぐりで進むうちに、やがてトンネルを出たときのさわやかな世界を見ることができるとは思いません。

では、私といっしょにエイズ・ワールドへ探険に出発しましょう。最初は「免疫の話」です。落ち着いてページをめくってくださいね。

① エイズという病気

免疫とは何か？

みなさんは風邪をひいたことがありますか？ 夏の夜に裸で寝たら寝冷えをして鼻がつまりだした、隣の人がせきをしていた翌日に同じようにせきが出て熱が出た、という経験はだれにでもあるのではないでしょう。風邪をひいてしまったのですね。

風邪には二つの原因があります。



1. エイズという病気

①からだが冷えたため。

②ウイルスなどがからだの中にはいったため。

風邪をひいたら、どうしますか？ たとえば、病院に行きますね。薬を飲みます。熱い飲み物を飲んだりして寝てしまいます。安静あんせいにして寝ていれば、三日もすれば、たいていの人はなおってしまいます。

風邪の原因のうちの②では、ウイルスという言葉が出てきましたが、このウイルスというのは電子顕微鏡でんしけんびきょうをつかわなければ見えないほどの小さな微生物せいぶつです。風邪が伝染でんせんするのは、会話をしたりくしゃみやみをしたときに、ウイルスが飛びだし、それが空気中を泳いでからだの中にはいるからです。のどの奥おくにウイルスが感染すると、からだはへんなものかはいってきたという反応はんのうを起こしますが、これを炎症えんしょうといいます。のどが痛くなるというのは、のどに炎症が起きたからです。炎症が起ると、多数の白血球はつけつきゅうが血液の中で動きだします。そして、炎症を起こしている場所にはこぼれてウイルスと戦いはじめます。風邪をひいたときに安静にして寝ているのは、人間のエネルギーをむだづかいしない

で白血球はっけつきゅうにじゅうぶん働はたらきをしてもらい、ウイルスをやっつけてもらうためです。

人間のからだには、このように外部から侵入しんにゆうしてくるものからまもるためのいろいろな仕組みがあります。細菌さいきんやウイルスがからだの表面についた場合には、まず厚い皮膚ひふがありますから内部に侵入することができません。また、鼻の穴から飛びこんだ場合には、密集みつしゆうしている鼻毛が防ぎます。鼻汁や涙は侵入してきたものを外側へ流してしまふ働きをもっています。それでも、防ぎきれないでからだの中にはいつてきた場合には、風邪かぜのときのように白血球が戦たたかつてやっつけてしまいます。

そもそも、からだの中に何かがいって来ると戦たたかいが起おこるのには、どうしてでしょうか？

人間が下等動物かとうであったころは、ぐにやぐにやとして、外部から何かまぎれこむことができたものであったのでしよう。現在のように、しっかりとしたからだをもった形になるまでには、相当そうとうの長い年月があつたのです。人間が人

1. エイズという病気

間としてひとり立ちしていくためには、何でも自由にはいりこめるものでは困ります。みなさんがだれかということ（しやうめい）を証明するためには、他の人とはちがう個性（こせい）をもたなければなりませんね。顔もちがう、性格もちがう。ちがいはつきりとさせなければ、兄弟か双生児（そうせいじ）にまちがわれてしまいます。このちがいはつきりとさせることによって、人間はぐにやぐにやとしたものから、次第（しだい）に形のはつきりとした生物に成長していったのです。ちがいはつきりとさせるために、外部からはいってきたものを区別してはきだす必要がありました。その仕組みが人間のからだの中にできて、私たちは人間として生きていくことができるようになったのです。

その仕組みとは、まず自分（自己（じこ））をまもるために、自分でないもの（非自己（ひじこ））をはつきりと見分けることからはじまります。次に非自己をからだから取りのぞくことをします。このことを「免疫（めんえき）」といいます。

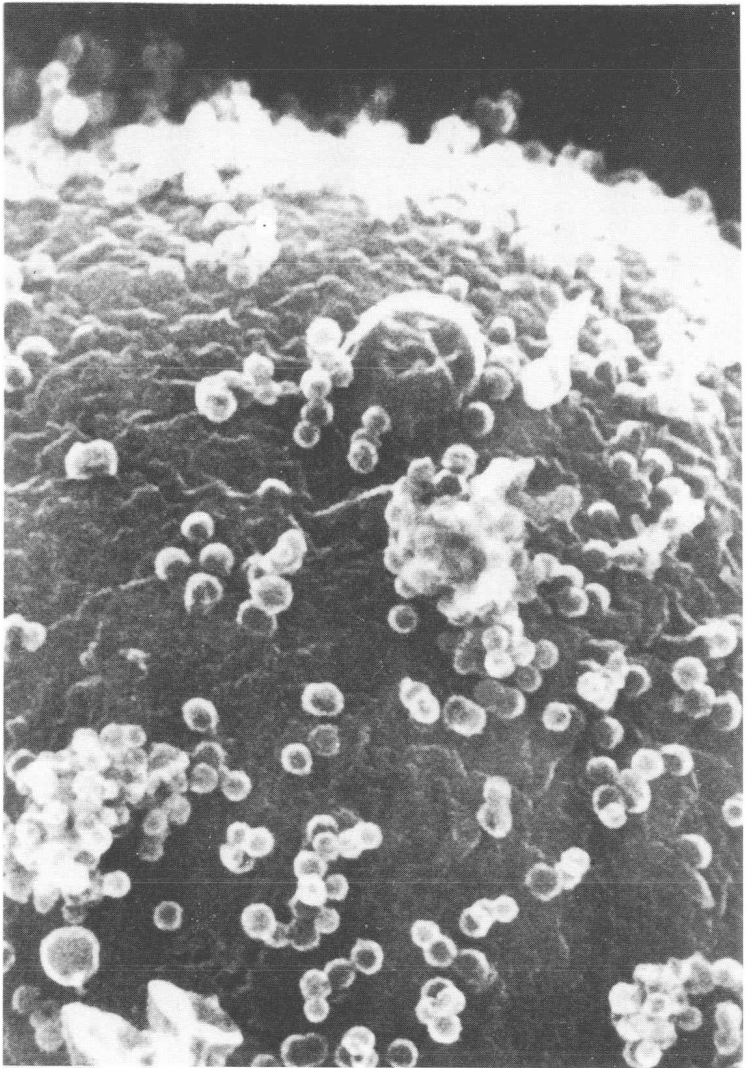
免疫の働きには、このように外敵に対する戦いもありますが、また、からだの中の古くなったものを捨てるための内敵に対する戦いもあります。しかし、

ここでは、外敵に対する戦いにしぼって話しましょう。

人間は有害なものがからだの中にはいつてきたときに、それに対抗するものをつくって無害にすることができません。からだには、生まれつき体内にもつていたもの（自己）と、外部から体内にはいつてきたもの（非自己）を見分ける能力があることは、いま、説明したとおりです。

風邪の場合、血液の中で白血球が、炎症を起こしている場所へ移動してウイルスをやっつけます。そもそも、ウイルスは自分ひとりでは生きることができません。ウイルスは細胞の中にはいつて栄養を吸収し、生きつづけ、増えます。しかし、ウイルスは、「抗体」というタンパク質に出会うとそこにいつて死んでしまいます。

抗体ができるまでには、あるていどの時間がかかります。HIVウイルスに対する抗体の場合、六〜八週間かかります。抗体ができるまで待つていて、何もしないでいたら、ウイルスはどんどん増えていきます。そこで、いろいろな動きが起こります。まず、白血球の親類であるマクロファージが、次のように



めんえき エイチアイヴィー めんえき ぶぜん
免疫細胞にとりついたH I V (ヒト免疫不全ウイルス。エイズの原因となるウイルス)。